地元に帰る

働き方、子どもたちへの思いを再認識し、Uターン

七川竜寛（たつひろ）さんご家族

今年4月に夫・竜寛さんの地元である宇城市に家族４人でUターン。現在は竜寛さんの父母と一緒に暮らしている。

地元で大切な時間と体験を

今年の4月に転入した七川さん一家。夫の竜寛さんの地元である宇城市への移住を決意した理由は２つ。

1つ目はコロナ禍の時期に働き方について考えることがあったこと。「東京の会社に勤めていましたが、仕事柄、移動が多く、都心に住む必要はないのではないかと思うようになりました。」と話す竜寛さん。今も、東京の会社で働いているが、会社の理解もあり、リモートワークで出社している。

2つ目は、娘たちに祖父母や親戚と触れ合う時間を与えたかったから。「娘たちが自分の両親に会える回数はあと何回あるだろうと考えたときに故郷で過ごす時間は大事なものだと気付きました。宇城市では小さい子でも他人に親切にするという習慣が自然と身に付いている気がします。普段、家族以外の人と触れ合う機会が多く、それが生活の豊かさと、心の豊かさにもつながっているのではと考え、娘たちにもぜひ経験してほしいと思っています。」と話す。

移住の際に大変だったことは当時、子どもたちがそれぞれ高校、中学に進学するタイミングで、育った東京から離れたくない思いが子どもたちにあったことと、熊本のどの高校を受験すればよいか情報収集をしなければならないことだった。「娘たちには東京を離れたくない理由をしっかりと聞き、解決しました。受験の時も東京の塾から熊本の塾へ連絡を取ってもらい、情報収集。また、東京から熊本への引っ越し費用がとにかく高くて困りました。でも、移住の決め手になったのは県が行っている支援事業の存在でした。これが移住の決断を後押ししてくれました。」と当時を思い返す。

「宇城市は食べ物もおいしいし、野菜や果物が安いところも助かります。遊びに来てくれた人は皆さん気に入ってくれて、また来たいと言ってくれます。働き方が多様化し、地方に移住して仕事をする人がこれから増えていくと良いですね。」と話す竜寛さん。今回の移住は価値のあるものになった。

熊本県移住支援事業

熊本県内の市町村に転入した場合
※補助対象要件は他にもあります

補助額
2人以上の世帯 100万円
単身 60万円

詳しくはこちら

子育てのため住む

ここで子育てしたいと

ニコニコと笑顔が素敵な娘さんのいる柳浦さん一家。

現在、お互いの職場が宇城市で、それぞれの実家が八代市、熊本市ということもあり、中間地点である宇城市で家を建てることを決意。県の中央でＪＲ、高速道路などが近く、各地へのアクセス性の良さも住む決め手となった。

そんな柳浦さん一家の移住を後押ししたのは、市が行う「子育て世帯定住促進事業補助金」。「こんな補助金がある、と知り合いが教えてくれた。家を建てる際は何かとお金がかかるのでこのような補助金があるのは非常に助かります。」と話す。

「宇城市は都会過ぎず、田舎過ぎず、ちょうど良くて生活しやすい。保育園や小学校、スーパーなどの生活に関わるお店がすぐ近くにあるので共働きの家庭にはとても助かります。子育てに優しいまちですね。」

「不知火図書館、こども絵本のいえはよく利用していて、隣にあるこどもセンターにも行ってみたいです。」と柳浦さん夫婦。宇城市に住む来年を楽しみで待ちきれない様子。

子育て世帯定住促進事業補助金

現在、宇城市外に住み、宇城市内に住宅を新築または建売住宅（未入居に限る）を購入した場合、住宅の取得費用の一部を補助

補助額
1戸当たり50万円

詳しくはこちら

子育て世帯に優しいまちだから――。

柳浦信一（やなうらしんいち）さんご家族

宇城市に家を建て、来年に移住予定。夫婦と娘の3人家族。